

兒童の個性及其取扱法

文學士 松本孝次郎

前號で御話致しました通り受動的の子どもと云ふものはそう云ふ譯でありますから筋肉でする方の事よりも頭腦で考へる事の方が得意です、丁度中学校の生徒などにして能く書を描くことが巧みとかいふ様な小供は却つて頭腦を使ふ方の事は能く出来ないといふやうな事がありますがそれらは畢竟此個性の違ひが表はれた場合であります、或は運動家として競争に勝るといふやうな運動家が却つて頭腦の方の働きは能く出来ないといふのが個性の表はれ方です、此類の小供はどうも運動といふことが餘り出来ないやうな風があります實際に小供を扱つて御覧になれば運動場の方へ餘計出た時に機嫌の好くなる小供は部屋の内に入れば却つて愉快に活潑にならぬ小供である、それは矢張り受動と發動との違ひから起つて來るものであります、此受動的の小供はどうも運動をすることが不得意ですから新しい遊戯を教へる、新し

い運動を始める時になりますると誠に之を學ぶのに遅いのです、どうもさう云ふ事が不得意で學ぶ事が出来ないのです、此類の小供はどうかと言ふと成程前に申しました注意の流動といふことはありませぬけれ共其代りには注意の不動といふことが又あつていけないのです、注意の不動と言ひますのは同じことを何時までも注意して居つていかぬです、モウ新しいことゝ變つて行くのですけれどもそれが又新しい事に變つて行くことはナカ／＼出來ない、詰り一つことを愚圖／＼やつて居る、斯う云ふ事を言てますがそれは何故一つ事を愚圖／＼やつて居るか、即ち此性質の小供は注意の不動といふことが起つて新しいことに變はつていかない、まだ何かやる事があるだらう、まだ何か調べることがあるだらうまだ是では不十分であるといふ様になつて詰り研充心が餘り清過ぎて今度は新しいことの方に向はないといふ決心になる詰り世間の人が往々言ひますがあの人は事にタンネンで一つことを長い事やつて居ると言ふのは矢張り受動的の個性が著しく表はれた場合を言ふのです

それは即ち注意して見れば幼い中から或小供は一つ事に長く掛つて何時までもやつて居る、それは注意不動の方です、だからして詰り久しく面倒な事柄に付て非常に精しくなります、非常に精しくなります、其亦教育を受ける時代に於ては色く取込まぬならぬから餘り不動であり過ぎて困る、少し此注意を奴に加減の時に他へ移すやうな方向に導いて行かないと多少困るのであります、斯う云ふ様な小供の取扱方は次に御話致します、

以上御話しました受動的即ち感動を餘計表さない方の小供といふ者は之を取扱ふのに餘程困難です、何故困難であるかと言ひますと自分自身を表てに發表しないといふ事があり、爲に小供を取扱います人が小供の眞の心を解釋するのに困難を感じ、様になるのです、之だからして今小供が悲んで居りまして、どう云ふ譯で悲んで居るのかといふを側へ行つて尋ねても唯々黙つて居つて答へないといふ風になつて居るので其原因が分らぬからしてこちらで以てどう云ふ様にしたら宜いか殆ど

當惑して仕舞ふ様な有様に陥つて仕舞ふのです、うして其上にこちらで以て餘り推察をして其小供を取扱てやるといふ事も宜しく無い、多分斯う云ふ譯であらうといふ風に推察してやるといふ事は却つて危険な事があるのです、何故危険であるかといふと若し一度こちらで以て執りました所の扱方が誤つて居つても其小供が受動的の性質であります、爲にそれで自分の意に適はないといふ事を言はないのです、假令自分の意に適はぬでも黙つて居つて心の中で忍んで居るやうな有様になるのです、さうして益々心の中の苦みといふものが多くなつて来るのです、段々に心の中の苦痛が増して来るばかりであるのです、さうして其様に心の中に苦みが増して来ますといふと必ず自分では外部に之を表さないことを努める様になる、假令自分にどんな苦みがあらうとも發表することが嫌ひであり、益々益々自分の心の中に藏めて置いてさうして之を表はさぬ様に努めますから其性質といふものが益々秘密的の性質になつて仕舞ふのです、世間に能くありません様に自分の朋友にでも自分の

兄弟にでも眞の自分の心を表はさない子供がある、親にも何も言はないといふ様な小供がありすが、それは詰り其性質が段々秘密的になつた場合でありすが、斯う云ふ様な譯でありすが、餘り呼吸的の小供の心の中を推測して扱ふといふことは確かに危険な事が伴ひますから寧ろこちらが充分にどう云ふ譯であるかを明かにする迄する事は却つて當らず觸らず自然に放擲して置く方が餘程宜しい、其方が安全であるのです、それでありますから受動的の小供などが居りましたも保姆の方では強いて其小供をば導いて其小供の性質を和ける事をば急激にやりますと却つてやり損ふ事がありすが、次第／＼に感化し誘導する機會を持つて居るのが必要であつて其成功を急激に望むことは悪い、小供に遊戲をさせます際に此受動的の小供は却つて遊戲の嚮導者、遊戲の中心となる位地に屢々立たせる方が宜しいのです、前に申した發動的の小供と反對で嚮導者の位地に立たせる方が此小供の性質を直ちに適當して居る、其代りには此種類の小供は餘り運動といふやうなことは巧みに

に出来ませぬからして愈々活潑に多くの小供に愉快を與へるやうな方法でやることは餘程六つかしくありすが併し此小供の性質を直すといふ方から申しますると屢々遊戲の嚮導者の位地に立たせる必要がありすがそれらが爲め、是非さう云ふ方法を執らなければならぬのです、それからして此類の性質の小供には成るべく發問を多く與へる方が宜い、詰りこちらからして導いて自分を發表する機會を成る可く多く作つてやる事が要要なんです土臺が發表を好まぬ方の小供でありすがからしてそれだけ導いてもナカ／＼發表しませぬけれ共併し屢々發問をし是非其小供に答へさす様な方法を執りますと其中に段々發表する様な習慣が出来て來るのです、若し此類の小供が發表をいたしました時に大抵は其發表を獎勵するやうな言葉を用ゐることも必要です、其言葉の使方が發動的の方の小供に向つて餘り獎勵的の言葉のみを用ゐて居りますと却つて益々發動的になりまするが受動的の小供には主として獎勵的の言葉を用ゐた方が効力が多いのです、斯う云ふ點に注

意して受動的の小供を扱つて行きますならば暫くの間には追々と其性質を改めることが出来る様になるのです、

詰り受動的の小供が段々に性質を改めることが出来ないでさうして悪い方に極端に走つた結果ではその事がどんな工合になるであらうかといふ事が丁度青年の時代になりまして此文弱に流れるのは受動的の青年が極端に走つたトウ／＼直すことの出来なかつた結果であります、例へば無暗と眞の文學の趣味といふものが分らないのに唯々議論をやつて見る、眞の美術といふことは分らぬのに美術の事を言つて見とか勞働を賤むとかいふやうなさう云ふ文弱の青年といふものは詰り此受動的の小供が追々と其個性を改めることが出来ないでさうしてさう云ふ悪い方面に向つて仕舞つた結果であります、それだから其青年の間に於きまして矢張り幾らか尙武派とも言ふべき少しも外部の向には構はぬ粗暴な事をやつて居つて自分の思ふ儘の振舞をするといふやうな幾らか武に走り過ぎた青年は詰り發動的兒童が其極端の所まで弊害を

持つて行つた結果であります、さう云ふ發動的の性質は何處までも其腦髓が非常に粗略になつて仕舞ひまして或緻密な仕事といふものは少しも出来ないやうな風になつて仕舞ふのです斯う云ふ譯でありますからして小供をば取扱ひます點から申しまするとどうしても此個性といふものを觀察して受動的の者はモウ少し發動的にする様に致しまするの者はモウ少し受動的の方にする様に致しますれば餘程調和的に即ち圓滿なる性質の小供が出来やうといふ譯であります能く此二つの性質をば調和することに心掛けて行かなければならぬので次には此想像に關する個性の事に付て御話いたします、小供が色々想像を致しまする際に於きしても矢張り小供に依つて個性が違ふといふ事を發見することから出来るので、それに依つて又保育するのに取扱ひ方を違へて行かなければならぬ必要があるのですそれで此個性といふものは之を考へて行きますのに想像に使ひます材料の方から研究される所の個性とそれからモウ一つは想像力の

働方、即ち作用の方から研究される個性と斯う云ふ様に分れるのです、それで材料に關する個性と言ひますとどう云ふ事を指すかと言ひますのに小供が想像を廻らします時に當りまして或小供は特に眼からして得て來た材料を重みに使ふのです又或小供が耳で聽いた所の材料を重みに使ふのです、先づ此二つの種類が一番に多いのです、例へば小供が一度自分の眼で以て見ました事柄は能く覺へて居つてさうして小供の致します作業の上に自分の眼で見た事が始終形になつて表はれる様な風に働く所の小供もあります、例へば表で以て今自分が或形の物を見て來たらばその形の物を自分で造つて見るといふ事を喜ぶ小供があります、さう云ふのは眼で見えて來た方の材料に依つて想像を廻らす方の小供であります、それから或小供は耳で聽いた方の即ち音楽のやうなものを能く覺へて居つてさうして重みに其音楽の眞似をするといふやうな事で以て何時でも想像を働かして居るやうな小供があるのです、斯う云ふやうな性質は長く續きまして學校教育を受ける様になりまして

矢張り眼で見た方の事を能く覺へて居る様な小供は同じ作文にいたしまして記事文的の文章を上手にやる様になります、自分が眼で見て來たことを其通り覺へて居つてそれを表はす様な風でありますからどうしても記事文が巧みに出来る様になるのです其他書を描くといふやうな場合にも概して眼で見て來たことを覺へて居る方の小供は材料が豊富です、耳で聽いて來たことを覺へて居る様な小供よりも却つて眼で見たことを覺へて居る方の小供は色々な事を書顯はすに都合が宜しい、併ながら簡単な書の一つ描いて置いてさうして其書の中に色々な意味を含んで居る、書で以て小説的のことを表はす様に話と聯結を附けてさうして話しながら描いて居るといふやうなことは耳で聽いたことを覺へて居る方の小供に大變有り勝であります皆さんが極簡単な書を描いて居つても其小供の想像が誠に巧みであるといふ様な風に感動される場合はどうしても聞いて來た事を覺へて居る方の小供が大層多いのです詰り話をしながら書を描いて行くやうな事で是は極幼稚園時代の小供には

著しく見へないけれ共其性質たるや矢張り聞いて來たことを覺へる小供に著しく表はれて居るです

そこで此二つの性質は將來或専門の業務をいたします時になりまるといふと餘程小供の發達の仕方と違つて來る様になります、例へば眼で見たことを能く覺へて居る方の小供は動植物のやうな自然物を研究する學問又は機械を組立てるやうな學問、重みに眼に訴へてやりまます業務をいたしますと非常に發達する様になる、それからして耳の方で聞いて能く覺へるといふ小供は音樂を稽古するとか或は演説家になるとかいふ風の事は餘程得意に上手に發達する事が出来る様になります、此想像の材料がどう云ふ様な方面に餘計富んで居るかといふ事を考へる事が將來其小供をばどう云ふ方向にしたらば宜からうといふ事を極める時に參考の材料になるのです

斯う云ふ様な小供の取扱方から申しますと先づ多くの小供は大抵眼で見たことを覺へて居る者が多いのですからしてさう云ふ様な小供に對して

はこちらで話をして聽かせた事をば能く覺へさせ其方の習慣を養ふ方法を執るが宜い、詰り耳で聞いて來たことを能く覺へる方の性質の小供はこちらで以て話してやりまます御話の如き事は容易く能く覺へて居りますから餘りこちらで復習的の話をさせて見る必要は極少い、却つて眼で見たことを能く覺へるであらうと思はれる小供の方に復習的に述べさせて見る事が大變必要です、言はゞ上手に言へるといふ者よりも上手に話の出來ない者、復習の出來ない者の方に發問をして成るべく其事の答を求めさうして自然に話を能く覺えられない方の子供に平素から注意を餘計に持つて居る様にさせるのが方法としては必要なる注意になるのです。耳で聞いたことを能く覺える方の子供には詰り割合に多く發問してやつて構はないと云ふことです。

其代りには耳で聞いたことを能く覺えて眼で見たことを能く覺えない方の子供には或形の圖など示して、其圖を能く覺えさせてそして其圖の通りをば全くの記憶に因て考へさせることが必要です